



スポーツの

魔法

～パラスポーツで繋がろう～

目次

01 現状分析 (P.3~P.11)

02 課題解決案(P.12~P.35)

03 今後の展望(P.36~P.40)

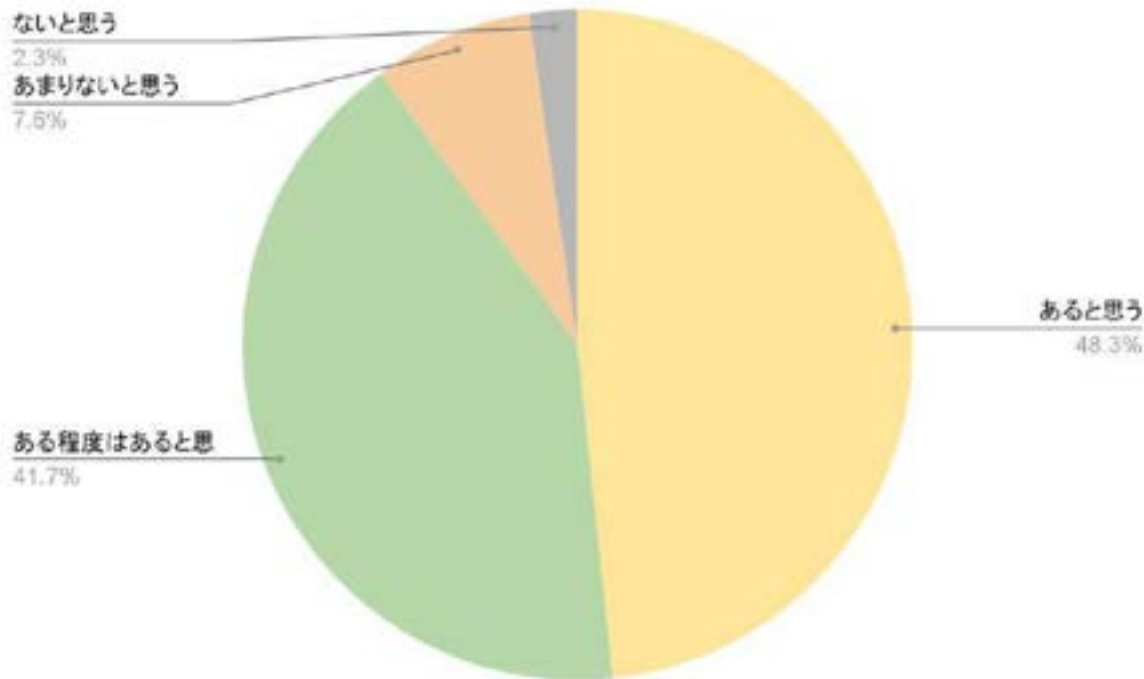
01

現状分析

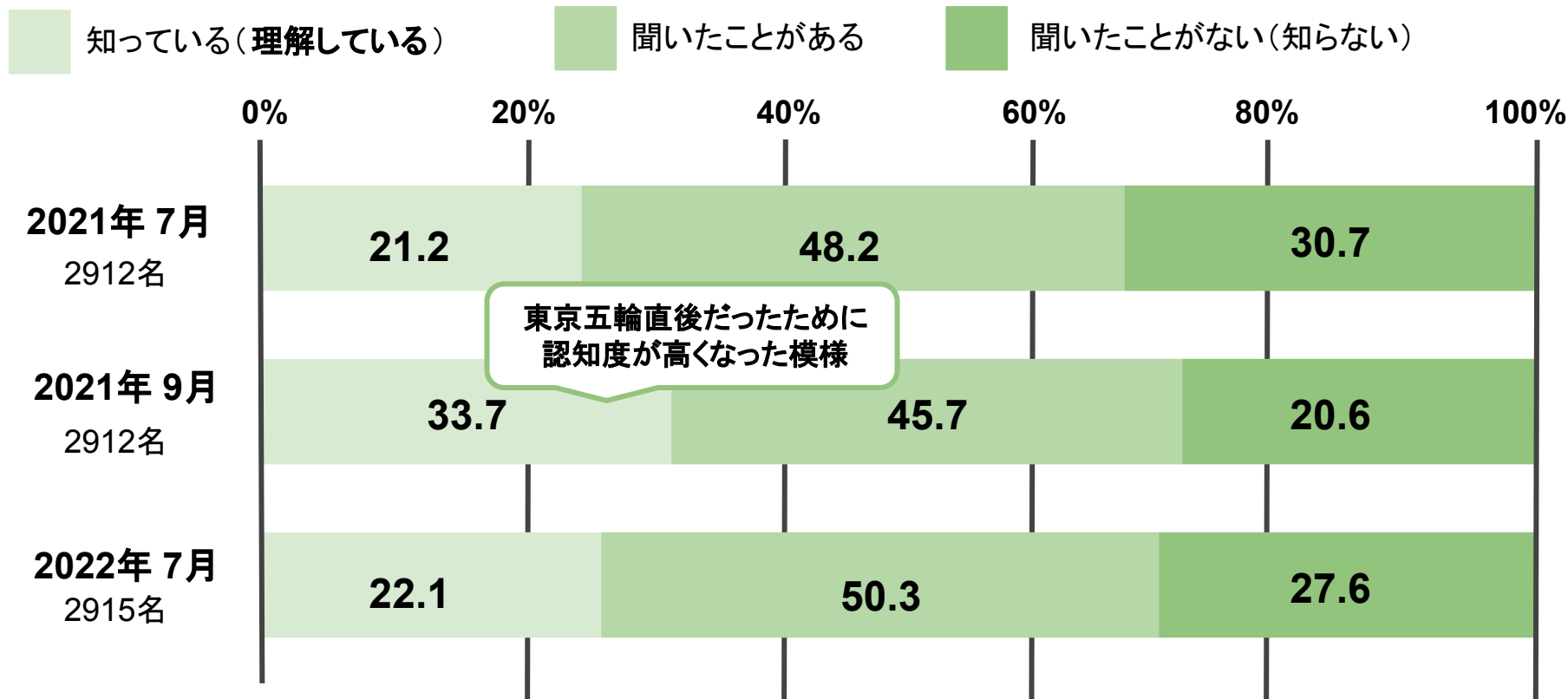
障害者に関する世論調査

対象:全国18歳以上の日本国籍を有する3000人(令和4年11月)

Q.世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか？



「パラスポーツ」認知度 (対象:全国47都道府県,15~79歳の男女その他)

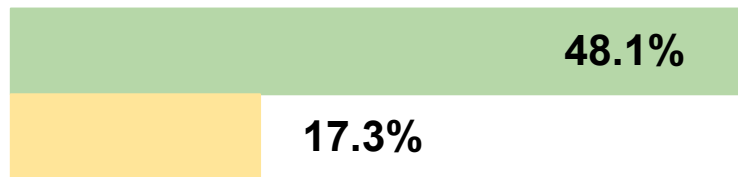


引用: [JPSA / パラスポーツの振興・共生社会の実現に係わる意識調査 \(2022年11月\)](#)

「パラスポーツ」が共生社会に及ぼす影響

(対象:全国12歳以上の男女10506名/マクロミルモニタ会員)

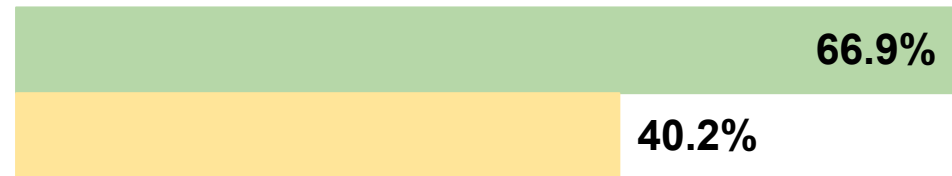
①「共生社会」という言葉を知っている



②パラスポーツに関わる
ボランティア活動の経験がある



③困っている人に声をかけたことがある



パラスポーツ体験あり



パラスポーツ体験なし

引用: [PR TIMES/2019年](#)

現状

上記3つの
アンケート結果から...

・障害者に対して「差別がある」9割

⇒ **多くの人**が感じている

・パラスポーツについて「認知」している 5割

⇒ 「**理解**」していないことが多い 2割

・パラスポーツを関わったり、体験したことがある人

⇒ 自らボランティア活動に参加するなど**積極的**な活動を



課題

- ・障がい者に対する何らかの差別・偏見がある
→社会的な差別をなくす必要がある
- ・パラスポーツの知名度のみならず理解度の向上を図る
- ・パラスポーツは障がい者の人々のみのスポーツである といった間違った認識をなくすこと
- ・パラスポーツを体験することで、自主的な活動を促進すること



目標

- ・パラスポーツやユニバーサルスポーツの普及
- ・多様性、共生社会への理解を深める

互いの個性を尊重し、
多様な在り方を相互に認め合う
社会の実現を

アンケート結果より

特に「**小学生**」を対象として行う

- ・未来を背負う世代
- ・様々なことを吸収しやすい時期
- ・幼い頃から差別意識を減少させる
- ・幼い頃の体験活動は将来に影響する



アンケート結果より

「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書
第2章 調査研究結果の概要 p18(国立青少年教育振興機構)

引用: Gakkenキッズネット

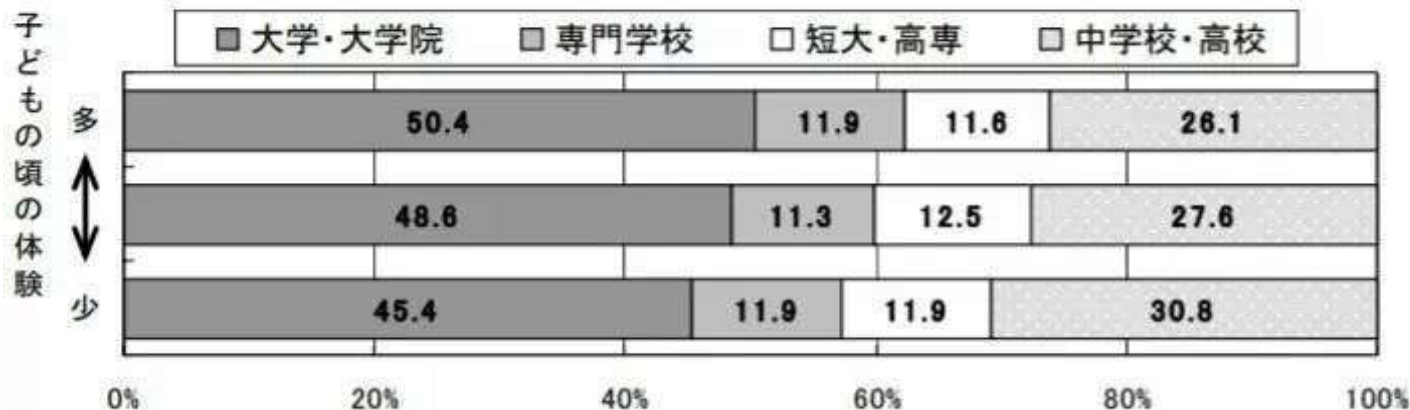


図 3-5-1. 子どもの頃の体験の多寡と「最終学歴」との関係

※体験...直接自然や人・社会にかかわる活動のこと

幼い頃に自然体験や友だちと遊ぶ、地域活動などの生活体験、
お手伝いをしている人ほど、自己肯定感や、
チャレンジに関する意欲・関心が高い

02

課題解決案

02

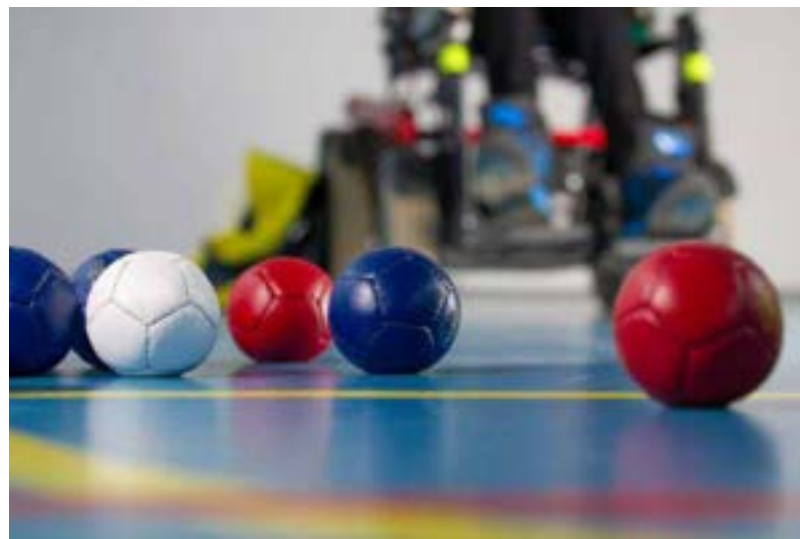
課題解決案 - プロジェクトの内容

- 01 : ワークショップ/Workshop
- 02 : ボッチャ作成/Handmade Boccia
- 03 : モルック部とのコラボレーション/Workshop of Molcky
- 04 : 関連団体との連携/Cooperation
- 05 : 情報発信/SNS

★「ボッチャ」を使用したアクション

- ・パラスポーツ
- ・難しい動きがない
- ・体格による不利が生じない
- ・チームワークが重要

⇒小学生でも一緒に行うことができる



①ワークショップ

学内で実施したオープンスクールにて
パラスポーツの授業を実施
(対象:小学3~6年生)

<内容>

- ・SDGsに関する知識・活動紹介
- ・パラスポーツの体験 - ボッチャ

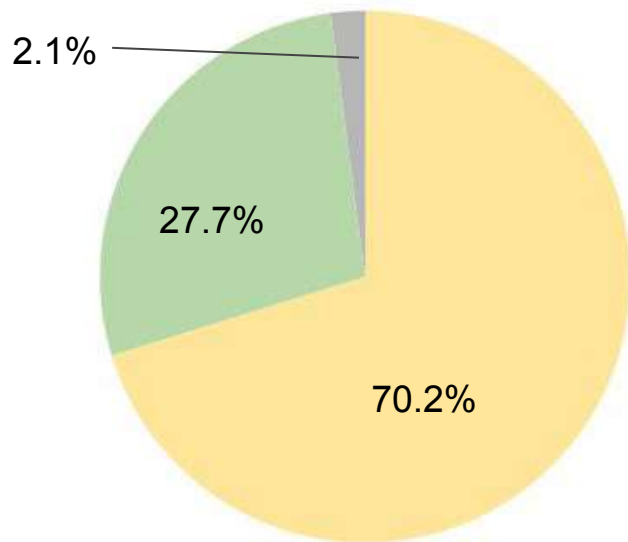
[使用した道具]
昨年度24時間テレビ様の選考により
提供していただいたもの
+ 自分たちで作ったもの



授業実施後のアンケート結果(対象:小学生47名)

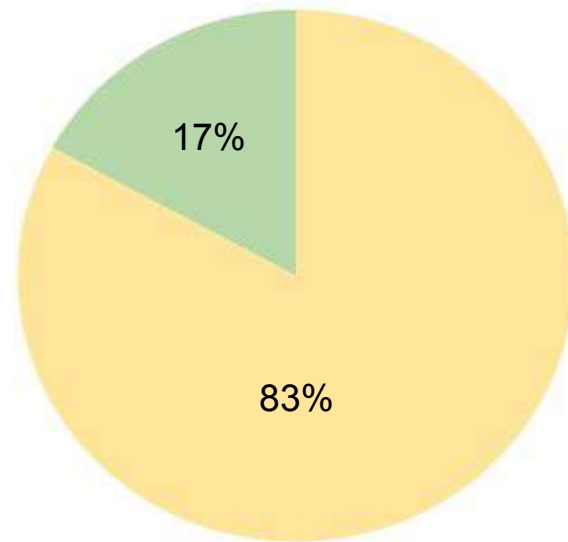
Q1. この授業を受けて、SDGsについて
より知ることができましたか。

● とても深まった ● やや深まった ● あまり深まらなかった



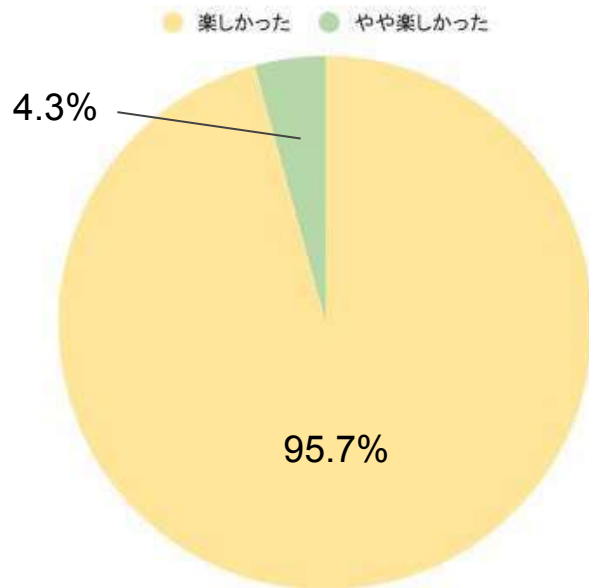
Q2. 授業を受けて、パラスポーツについて
より知ることが出来ましたか。

● とても深まった ● やや深まった

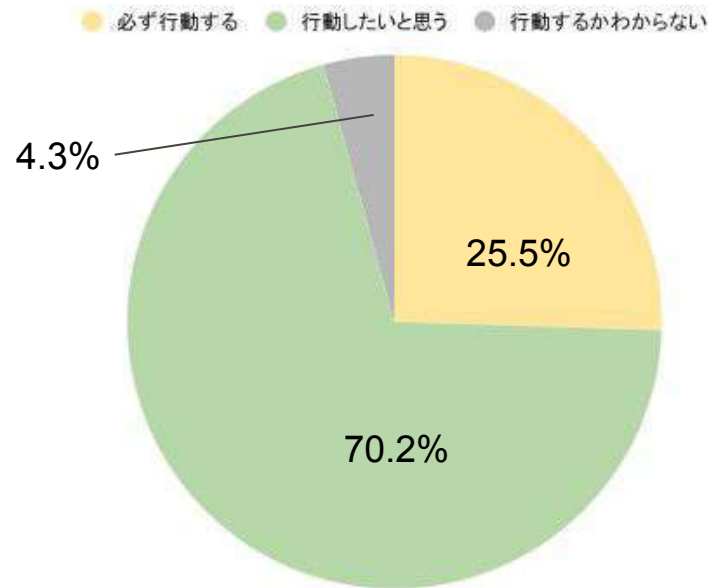


授業実施後のアンケート結果(対象:小学生47名)

Q3. 実際にポッチャを体験してみて、楽しかったですか。



Q4. この授業を受けて、SDGsの達成に向けて自分から行動しようと思いましたか。



授業実施後のアンケート結果分析

- ◎ 肯定的な意見が多く、体験会の満足度は高い(Q3より)
- ◎ SDGsやパラスポーツについて多くの人に理解を深めてもらうことができた(Q1,Q2より)
- ▲ SDGsについて理解ができてもすぐに行動しようとする人は少ない傾向(Q2,Q4より)

自発的に行動する意欲を引き出せる事例の紹介
また 促進することでさらに改善できるのではないだろうか

授業を受けた小学生の感想(一部抜粋)

- 4年生…** SDGsで色々なことができることを学びました。
ボッチャが楽しくて、**パラスポーツに興味**を持ちました。
- 5年生…** 3年生のときパラスポーツを勉強しました。
この授業でもっと詳しくなりました。
2030年までに自分でできる限り**地球をきれい**にしたいと思った。
- 6年生…** ボッチャはとても**チームワークが必要**な競技だなと思いました。
この授業を受けて、ボッチャが一番楽しかった。
今までやったことがなかったので、**いい経験**になった。

授業実施後の振り返り

良かったこと

- ・役割分担により効率よくスムーズに進めることができた
- ・予定通りの進行ができた
- ・小学生の実際の反応を肌で感じる事ができた

改善点

- ・練習不足
- ・ボッチャの点数換算に関して分かりやすく説明できなかった
- ・一緒に来てくださった保護者の方への対応不足
- ・リアクションをもっとつける必要有
- ・説明をゆっくりとする

①ワークショップ

現在：小学生対象のセミナーのみの実施



2月に学内で開催される**アカデミックフェア**にて
本校生徒や教育関係者向けの**ワークショップ**を実施

実施内容)ワークショップ: 25~30分の1コマ×3回
ポスター発表: 主に活動報告・振り返り

①ワークショップ

SDGsの詳細な説明は省き、自分たちの活動目的にフォーカスを当てる

生徒・教員・教育関係者

SDGsについてある程度の知識がある



SDGsとパラスポーツの関連性

私たちの活動の狙い
この活動に込める思い

ワークショップの大まかな流れ

- ①SDGsとパラスポーツの関係(3分)
- ②現状の課題をもとに私たちの活動目的を説明(2分)
- ③ボッチャのルール説明(3分)
- ④ボッチャ体験
- ⑤振り返り、ワークショップを通して伝えたいこと



②ボッチャ作成

- ・基本的には一度使用されたものを使ってボッチャを作る
- ⇒SDG12「つくる責任・つかう責任」にも関連

ボッチャコートは試合で使用されるフルサイズの値段は約14万円
ボール1セットで2万5000円と非常に高価

より多くの人に知ってほしいとの思いから**独自のアイデア**で
用具を**身近なもので簡単**に作ることでコストを抑えられる

②ボッチャ作成

< 材料 - コート編 - >

- ・ブルーシート
- ・ビニールテープ(白)

フルコート (12.5m × 6m)

ハーフコート (5m × 3m)



⇧実際に手作り・使用したハーフコート

②ボッチャ作成

< 材料 - ボール編 - >

- ・使わなくなった靴下
(自主的に学校内で靴下を回収)
- ・輪ゴム
- ・ビニール袋
- ・アイロンビーズ・アクアビーズ

家で集められる かつ
使わなくなった材料を利用



②ボッチャ作成

< 作り方 >

1. ビニール袋にビーズを入れる
2. 重さをはかる
3. 輪ゴムでくくる
4. 靴下で覆う
5. その上に別の靴下で覆う



非常に簡単で単純な工程
=小さな子どもから大人まで誰でも作ることができる

③コラボレーション

現在：パラスポーツの中でも特にボッチャだけに焦点を当てている

今後：他のパラスポーツにも焦点を当てることを検討している

学内にある**モルック部**と**コラボレーション体験会**

— モルックを選んだ理由

- ・モルック部所属者がいる
- ・どんな人でも一緒に楽しめる競技
- ・ユニバーサルスポーツを広めることができる
- ・24年夏にモルック**国際大会出場**予定

モルック部



学内での
活動



パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ

体験会


小学生・保護者

地域の人々

④関連団体との連携

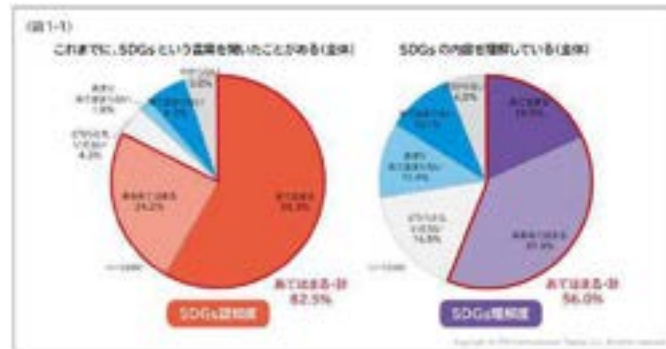
オープンスクールなどアクションを「**学校内**」で行っている

「外部」にまで活動を広げる

- 
- ex) ・幼稚園や小学校、他の中学校などで授業を行う
・地域イベントなどでワークショップを実施する
・パラスポーツなどの活動を行っている団体との連携

④関連団体との連携

- ・幼稚園や小学校、他の中学校などで授業を行う
- ・地域イベントなどでワークショップを出展する



現在：本学校ではSDGsに関する授業が頻繁に行われており、比較的理解度が高い。

→Jtb Communication Design の統計によると、SDGsへの認知度と理解度には差がある。

認知度だけでなく、理解度を高める

II

行動を実行に移す 人を増やす

セミナーなどにより同時に地域の人と協力することができる

II

地域活性化 に繋がる

④関連団体との連携

現在：学校の中の1つのグループなので**影響力が弱い**

今後：より大規模な体験会やセミナーを開催したい

パラスポーツ/ユニバーサルスポーツの
普及の活動を行っている団体との連携

ex.

公益財団法人

日本パラスポーツ協会 様



- ・新たな経験になる
- ・影響力が強まる



④関連団体との連携

📍 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター

日程: 3/17

場所: アミティ舞洲アリーナ

「障がいのある人たちと一緒にスポーツを楽しむ」

初めて実際に障害を持つ人と関わる



新たな価値観・発見
今まで持っていた考えの変化

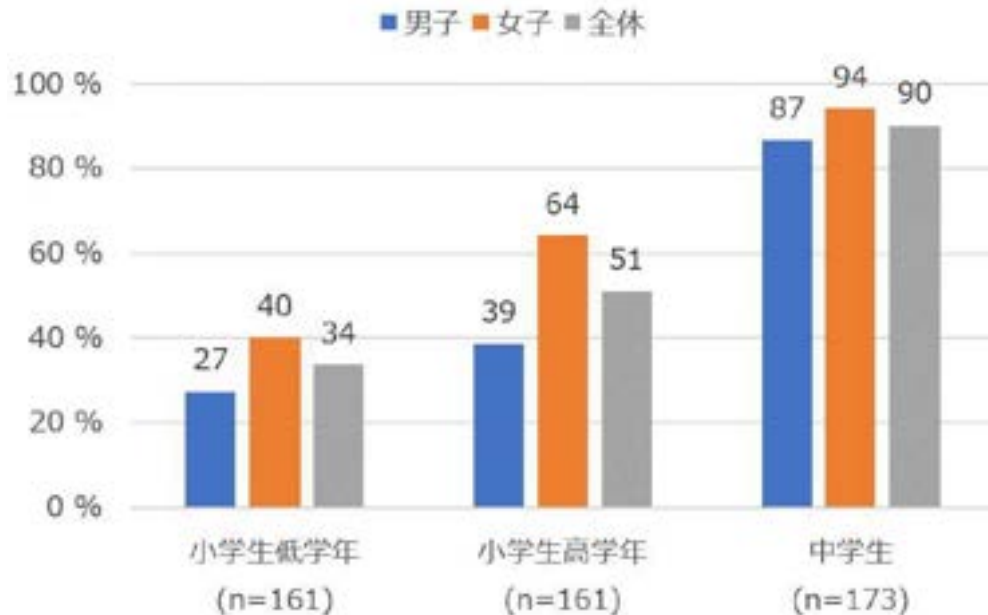
今後の活動の
さらなる向上に繋がる

⑤情報発信 - SNSの利用

- ・中学生までのSNS利用率は9割を超える
- ・簡単に世界中と繋がること出来る
- ・小学校の授業でもタブレットなどを使用する中SNSがより身近な存在となった

偏見をなくして
もらうことが
1番大切

小中学生のSNS利用率



引用:NTTドコモ モバイル社会研究所

⑤情報発信 - SNSの利用

SNSを利用した情報発信 - 媒体

➡ SNSの中でも特に若者の利用率が高い媒体を使用する

ex.



Instagram



YouTube
(short)



TikTok

⑤情報発信 - SNSの利用

投稿内容

- ・パラスポーツ
- ・ユニバーサルスポーツ
- ・多様性
- ・共生社会

テーマ

“明日誰かに教えたいくなる”



自然と輪を広げる

“楽しい”を大切に

03

今後の予定

3学期

2月に学外へ向けたワークショップを開催
ジュニアボッチャスクールでのボランティア活動への参加

来年度冬

コンテスト/大会を通じて
私たちの活動を更に多くの人に伝える

来年度夏

地域の幼稚園・小中学校でのセミナー
(モルック部国際大会)
マレーシア研修にて盲学校ボランティア

モルック部とのコラボ

⇒夏に挑んだ国際大会で得た
知見をもとにコラボする

共生社会とは

国内総人口の6%が心身の機能に障害を持っている

出典：[厚生労働省調査](#)

障害の有無やジェンダーや年齢に囚われず

すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い
さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会のこと

Ⅱ

人々が分け隔てなく暮らしていくことのできる社会のこと

スポーツを通して

自然な形で障害のある人や体力がない人への
理解・関心を深めていくことができるなどの効果



**健常者・障害者といった壁がなくなった
平等で共に協力し合う社会**



パラスポーツ
ユニバーサルスポーツを通じて
多様性への理解を深めよう！

